

「事業名：浪江町をフィールドとした放射線研究・教育プログラム」 2019年度事業の概要



弘前大学 連携市町村：浪江町

現地拠点：福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2 浪江町役場本庁舎内

事業のポイント

- 弘前大学浪江町復興支援WGが中心となり、弘前大学浪江町復興支援室とともに浪江町をフィールドとした事業を展開
- 看護や放射線技術を専攻する学部学生及び大学院生に対する教育プログラムの立ち上げ
- 帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理を目的とした調査研究や教育プログラムの開発と実践

2019年度の活動内容

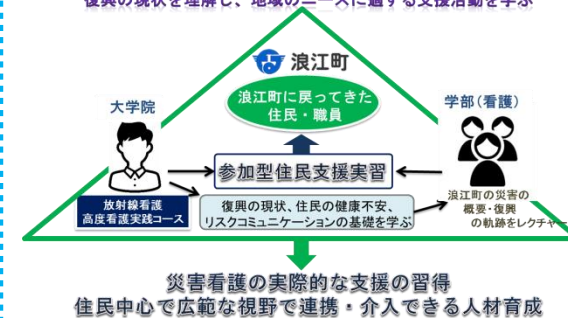
- 弘前大学学生に対する教育プログラムの開発
 1. 看護学生のための教育プログラム
 - ✓ 浪江町内参加型住民支援実習の開催
 - ✓ 大学院生による浪江町の現状と概要に関するオリエンテーション
 - ✓ 原子力災害後の住民支援に参加する学生用eラーニング教材の開発 等
 2. 放射線技術科学専攻学生のための教育プログラム
 - ✓ 現場において環境放射線モニタリングに関する学部・大学院生への教育の実践
 - ✓ 空气中放射性物質濃度モニタによる連続観測を開始する
- こども園職員やなみえ創成小学校・中学校に対する教材開発
 - ✓ こども園職員自身が放射線リスクコミュニケーションを実践するための基礎資料開発
 - ✓ 浪江町民のための放射線リカレント教育教材の開発と実践
- 浪江町民向けの支援
 - ✓ 浪江町民の独居男性高齢者の社会参加を促すアクションリサーチ
- 浪江町をフィールドとした調査研究
 - ✓ 野生動物アーカイブ試料の解析と生活環境回復及び健康管理に資する調査研究
 - ✓ 河川中に存在する放射性セシウムが存在形態分析と環境中での動態の解明

取り組みによって得られる成果

- 原子力災害を真に理解し被ばく医療に携わる人材の輩出
- 災害看護の実際的な支援を学び、住民中心でかつ広範な視野で連携・介入できる人材の輩出
- 放射線管理や環境放射線モニタリングの現場で活躍できる人材の輩出
- 新たな放射線リスクコミュニケーション手法の提案

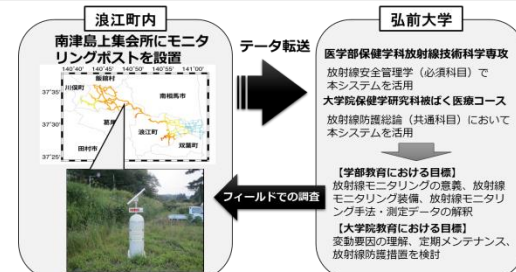
健康×復興アクティブラーニングプログラム

東日本大震災及び原発事故等により産業基盤が失われた浪江町の復興及び再生に向け、健康・QOLを支えるための関わりを通して、復興の現状を理解し、地域のニーズに適する支援活動を学ぶ



放射線モニタリング教育プログラム

【目的】 原子力災害時には迅速に空間線量率や大気中の放射性物質濃度等の実測ができる人材の確保が重要であり、本課題ではそれらの評価ができる人材育成を行う。



【期待される効果】 原子力災害時に迅速に空間線量率や大気中の放射性物質濃度の評価ができる。